



奈川の人口	
令和 8 年 1 月 1 日現在	
総世帯数	289 世帯
総人口	545 人
男	267 人
女	278 人
発行 奈川公民館	
発行者 奥原 広幸	
編集者 公民館編集委員会	
印刷 (株) プラルト	

無病息災を願って

奈川では歳の神（さいのかみ）と呼ばれる 小正月の伝統行事
正月飾りや旧年のだるまを飾って焼き、今年一年の無事を祈願します。

祝 二十歳の門出

おめでとうございます

令和 8 年
松本市八丁の記念式典

主催 松本市教育委員会

三十歳のメッセージ

おくほら はじめ
奥原 紀さん

私のふるさとが
奈川でよかった。
愛しているよ。

世代間交流事業

十二月六日、文化センター夢の森にて地区社協、公民館、高齢者クラブ主催による世代間交流事業が開催されました。

最初に高齢者クラブの方の指導で子どもたちがしめ縄づくりに取り組みました。

毎年参加していて慣れた手つきでしめ縄を作る子やなかなか慣れず上手く作れない子ども様々でしたが、皆、熱心に取り組んでいました。

作業の後は餅つきをして、つくたてのお餅とスタッフの方が用意した豚汁を食べながら参加者同士交流を深めていました。





地域住民と児童生徒の交流を兼ね、ミニふれあい健康教室が学校で開催されました。地域交流ルームでのお茶会の後、交流授業では、10月に開催された名古屋フィルハーモニー交響楽団の公演を機に取り組んでいる音楽活動が披露され、参加者たちは子どもたちの合奏や合唱に目を細めて聴き入っていました。交流給食会では、子どもたちから地元食材などの説明を受け、会話を楽しみながら自校給食ならではの温かく美味しい給食を頂きました。デュアルスクールなどで新たな仲間が加わる中、学年を超えた皆が主役の学校活動に皆さん感心していました。

12/9 出張！ミニふれあい健康教室

奈川ピカイチ 最終回

NPO 法人「あぐり奈川」に伺いました！

NPO 法人「あぐり奈川」は、農業による持続可能な地域づくりを目指しています。理事長の田中浩二さんは、母方の祖父が奈川の角ヶ平（奈川渡ダム建設時に水没・移転）出身で、巡り巡って奈川の地に来たとお話があり、奈川で農業を続けていく熱い想いを語っていただきました。

「あぐり奈川」を立ち上げた経緯は？

17年前、農業法人「かまくらや」を松本で立ち上げました。信州のそばを守りたいという気持ちで、一枚の畑から作業を始め、今では松本市と安曇野市で240ヘクタールの畑を引き受ける規模になり、後継者へ引き継ぎました。その後奈川のそば畑の話をいただき、「あぐり奈川」を令和6年3月21日に立ち上げました。「かまくらや」は地域とのつながりを大切にすることを信条としていました。「あぐり奈川」でもそれを指針として新たな挑戦をしています。

今後の挑戦は？

高原野菜の生産として、標高1,100mの冷涼な地域の気候を生かし、キャベツの栽培に力を入れています。今年は、キャベツ収穫機を導入し、大幅に作業効率が上がりました。また、信州の伝統野菜でもある保平カブも、地域の皆さんとともに収穫し販売しています。農作業の効率化を進め、販売拡大をしつつ確実に農産物を供給できるようにすること、そして後継者を育てていくことを今後も考えていきます。奈川の農地がいつまでも活気があり、保全・活用いただけるように、皆さんから安心して農地を預けていただける「あぐり奈川」の運営に尽力していきます。



▲「あぐり奈川」の事務所内で

【NPO 法人 あぐり奈川】
場所：松本市奈川2490番地
TEL/FAX：0263-79-2070
E-mail：tanaka@agri-nagawa.com

おとなの社会見学

11月21日、福祉ひろば・公民館の共催でカゴメ野菜生活ファーム富士見工場を見学しました。カゴメの代表的商品野菜生活100が誕生し今年で30年、その工程や歴史を学びました。毎日約40台のトラックでこの工場から全国へ運ばれるそうです。お昼はファーム内のおしゃれなレストランで、カゴメの畑で採れたトマトなどを使ったピザやパスタなどを頂きました。また、野菜摂取量が測れるベジチェックという計測器が設置されていて、



皆さんドキドキしながら試しました。数値は平均か平均以上で、野菜はしっかり摂れていると、安心してファームを後にしました。12月16日、そば打ち講習会を開催しました。講師の丸山寿江さんにお手本のそば打ちをしていただき、綺麗な生そばができました。実際にやってみるとお手本の様にはいかず、寿江先生のアドバイスに助けられ何とか形になりました。何度もそばを打つこと、手を動かすことが大事だと講師からお話がありました。



そば打ち講習会

野麦路

昨年は昭和100年、戦後80年にあたる年でしたが、奈川では平成17年4月1日に松本市と合併してから20年を迎えた節目の年でもありました。

当時30万人都市を目指していた松本市のリーダーシップで周辺町村との合併協議が始まったものの、中心市街地から遠く離れ、唯一合併の歴史がない村として、住民の意思は揺れ動きます。合併派と自立派が大きく二分する状況が続く中、最終的には住民投票の結果をもって奈川も合併推進と集約され、安曇、梓川、四賀とともに松本市に編入合併しました（波田は5年後）。

合併によって人口流出が加速したという意見や、松本のブランド力で奈川の魅力が広く認知されたという意見など様々ですが、評価する上では、合併前と今を比較するのではなく、合併せずに20年が経過した村の姿を想像し考えることが必要だと思っています。

魅力ある地方都市として注目される松本市において、今後も合併地区の特色が最大限生かされるよう願っています。

（館長日記）